

〈天録時評〉

# 管理職独占!?!をめざす経営研

## 組合幹部と同和推進の経験者が中心メンバー

広島県の教育は、平成十年の文部省（当時）の是正指導以来、改善されたことは確かだが、福山市の義務教育では依然として広島県教職員組合（以後、広教組）などの組合の影響力が人事面でも色濃く残っている。それを象徴するのが、平成十七年に発足した「福山市学校経営研究会」（以後、経営研）だ。経営研は、校長などの管理職や教委の中枢に組合の幹部経験者などを送り込もうとする団体である。主要なメンバーは法令無視の違法、不法な教育を推進してきた組合幹部や同和推進などの経験者だ。しかも市教委や教育事務所まで関与している。経営研に加入するにはすでに会員の校長などの推薦が必要で、まさに派閥活動を奨励するよつな団体だ。

### 法令無視の学校運営

広島県教委は、平成十年に文部省の是正指導を受けてから、広教組や広高教組の現場支配を排除し、教育の正常化、教育力の向上のために様々な改革、改善を行った。しかし、十年余りを経て、現場の雰囲気は様変わりしたとはいえず、組合は隠然たる力を持っている。その原因は、校長はもとより、県教委、市教委の中枢を組合幹部の出身者が占めているからだ。

是正以前は、広島県では組合に加入していない教員は管理職になれなかった。非組合員の教員はどんなに実績を上げても、評価されず、異動でも不遇を覚悟しなければならなかった。組合のストに賛成しない教員は主任にしないという校長と組合の確認書であり、主任にもなれなかった。その文書は破棄されても、小中学校では状況はあまり変わっていない。県立高校では、主任の任命には県教委の承認が必要になり、改善もされているが、小中学校では依然として、組合員が主任や主幹に任命されている。組合幹部を勤めた教員が管理職になり、教委の中枢に入っていくという構図は続いている。

この構図をさらに強固にしようと、平成十七年に福山市で立ち上げられたのが「福山市学校経営研究会」だ。経営研の目的は、福山市において自主・自律的な学校経営を担う人材の育成とされている。しかし、「本市の管理職登用状況を見ると、他地域からの昇任者によってその穴が埋められているという事態が、ここ数年顕在化しており、忌々しき状況にある」（発足趣意書から）という記述からも分かるように、「私怨」「私情」にあるのだから、最初からボタンの掛け違いがある。

# 危ないぞ!! 福山市の教育正常化

# 日本時事評論

編集・発行

(株)日本時事評論社

〒753-0817

山口市吉敷赤田四丁目6番38号

IP電話 050-3532-5152

FAX 083-928-1113

□編集部□

IP電話 050-3532-5149

FAX 083-922-3167

購読料 年4,800円

郵便振替01590-1-25226

時の流れの

羅針盤